

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第97号

発行:2026年4月1日

発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺

住職 天野英昭

〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号

TEL・fax(082)428-1360



行事予定 (4月~8月)



	日(曜)	時間	行事	ご講師	場所
4	23(木)	14:00~15:30	歎異抄輪読会	松田正典先生	本堂
5	3(日)	10:00 10:30~11:30 13:00~15:00	天龍寺仏教婦人会法座 演奏会(参加費500円) 昼席	声楽 山田 ちか ピアノ 青山 佳子 富永 やよい 島根県飯南町 西雲寺ご住職 榮 俊英 先生	本堂
6	18(木)	朝席 9:00~ 昼席 13:00~	安居会	広島市安佐北区 明光寺 坊守 牛尾 かおり先生	本堂
8	1(土)	朝席 9:00~ 昼席 13:00~	盆法座	岡山県高梁市 浄福寺ご住職 山下 義円先生	本堂
8	12(水)	18:00~ 19:00	磯松天龍寺墓苑 合同参拝	(場所)磯松天龍寺墓苑 ※磯松天龍寺墓苑の 関係者	本堂

お知らせ 仏教壮年会例会 毎月月末 14:00~15:30

仏教婦人会「縁カフェ」 13:30~15:00 関係者の方へお知らせします。

歎異抄輪読会 14:00~15:30 参加の方へラインでお知らせいたします。

むじょう ぼだいしん はじめ 無常を観ずるは菩提心の一なりⅡ

少し話はそれますが、昔は「長寿」の言葉のごとく、戦争・飢饉・疫病等により、人は長くこの世に生きていくことが出来なかったために、長く生きていくことが、喜ばれたとこの点もご指南をいただいたことがありました。

しかし、昨今、長寿社会を迎え、長く生きることが、そのまま人間の幸せにつながるという考え方も昔とは、少し変化しているのだとも、そのお話をいただいた際に、ご指南いただいたことでもあります。(決して長寿を否定しているわけではありません。)

どちらにせよ教え子の人生を含め、どのような人生を選択しても「難度海」を泳いでいかななくてはならない存在だと思えることです。

親鸞聖人の著された『顕浄土真実教行証文類の序』に「難度海を度する大船」とお示しくさされています。ただ、この「大船」に乗っているつもりでいても、乗っていない自分にも気づかれます。

今年の夏も多くの蝉の声を聴きました。みなさまもご存じの通り、蝉が地上で生きている期間は、一週間前後であると教員時代、同僚から聞いたことがあります。人間の価値観から考えますに5日、7日、10日とそれ程違いはないかと考えることもあります。それと同様に無量寿(仏様)の価値観からしますと人間の寿命もあまり違いがないとお聞きしたことがありました。

人間が、明日・将来のことを色々と思案するのは、「まだまだ自分の生命は、大丈夫だ。」という前提に立っているからだとご指南をいただいたこともあります。

さらに生きていけば、何をしなくても腹が減り、食事をとらなくてはなりません。そのためにはお金が必要となります。そのお金を得るために働かなくてはなりません。働くためには、健康が必要となってきます。ただ、この点も偉そうなことは申せませんが、自分の生命も含め、永遠はありません。

『大無量寿経』というお経の中に、「独生独死独去独来」という言葉があります。意味は、

「人間は、生まれてくるのもひとり、死ぬのもひとり」です。当たり前のことですが、日々大切にしている財産・家族等もこの境涯に残していかなくてはなりません。

高飛車な言い方ですが、人類は、「これがあれば幸せになれる。あれがあれば幸せになれる。」と願う科学技術・医療技術等を発達・発展させ、現在があると思います。

謙遜ではなく、私も含めどれだけの方が、日々幸福感を感じながら生きていらっしゃるのかとも考えることがあります。

度々耳にしてきましたが、人間には、欲があり続ける限り、「これで良い。」ということは無いと思います。欲が悪いわけでもなく、欲を捨てきれぬ存在でもないために欲を抱えたまま、幸せを求めるとはならず、日々の生活の中で、少しでも幸せを感じとれる生き方ができればと思うことです。

この厳しい現実の人生を生きていくことは、容易なことではありません。生きていく上で「何をより所に、何を頼り」にして、生きていかななくてはならないのか、昨今の自然災害、コロナ等を鑑み、今一度考える時代に入っているのかと思う今日この頃です。(10年前の文章を少し訂正しました。)